

保存版



総合防災 ハザードマップ

～大切な命を守るために～



洪水



土石流



崖崩れ・地すべり



大規模な火災



地震

長野原町

NAGANOHARA TOWN

はじめに

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。

予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、日ごろから内容に目を通し理解を深めていきましょう。また、本書の特徴として、災害時に持ち運びができるように冊子型としています。ヒモなどをつけるし身近に置き、緊急時に持ち出してご利用ください。

総合防災ハザードマップの活用方法について

- ①住んでいる場所と予想される危険箇所を地図上で確認しましょう
- ②避難場所を確認しましょう
- ③避難経路を考えてみましょう
- ④家族や周辺住民と情報を共有しましょう

家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときに慌てず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

- 家の中で一番安全な場所
- 家族一人ひとりの役割分担（安否確認、非常時持出品・備蓄品のチェック）
- 避難場所、避難経路（自宅と避難場所を確認）
- 自宅付近の災害リスク、危険箇所の確認
- 災害が起こった時の身の守り方
- 家族が離ればなれでいたときの連絡手段、集合場所
- 要配慮者（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦など）のサポートと避難方法



| | |
|-------|-------------------|
| 1 | はじめに |
| 2 | 5段階の警戒レベル |
| 3 | 避難行動判定フロー |
| 4 | マイ・タイムライン |
| 5 | 災害時の情報伝達 |
| 6 | 自宅にとどまった場合の備え |
| 7 | 避難の方法 |
| 8 | 感染症対策 |
| 9 | ハザードマップの見方 |
| 10 | 避難所一覧・全体索引図 |
| 11~22 | 詳細図1~6 |
| 23・24 | 風水害対策 |
| 25・26 | 土砂災害対策 |
| 27 | 地震対策 |
| 28 | 揺れやすさマップ |
| 29 | 火山対策(浅間山) |
| 30 | 小~中・大規模の噴火 |
| 31 | 火災対策 |
| 32 | 竜巻・雷対策 |
| 33 | 雪害対策 |
| 34 | 非常時持出品・備蓄品 |
| 裏表紙 | わが家の「緊急・救急情報」防災メモ |

5段階の警戒レベル

| 高 ↑ 警戒レベル | 避難情報等(警戒レベル) | | | 河川水位や雨の情報(警戒レベル相当情報) | | |
|---------------------------|---|--|---------|----------------------|----------------------|--|
| | 警戒レベル 状況 | 住民がとるべき行動 | 避難情報等 | 防災気象情報(警戒レベル相当情報) | | |
| | | | | 洪水の情報(河川) | 土砂災害の情報(雨) | |
| 5 災害発生 又は切迫 | 命の危険 直ちに 安全確保! | きんきゅう 緊急 あんぜんかくほ 安全確保 ※1 | 5 相当 | 氾濫発生 情報 | 大雨特別 警報 (土砂災害) | |
| 〜警戒レベル4までに必ず避難!〜 | | | | | | |
| 4 災害の おそれ 高い | 危険な場所 から全員避難 | ひなんしじ 避難指示 ※2 | 4 相当 | 氾濫危険 情報 | 土砂災害 警戒情報 | |
| 3 災害の おそれ あり | 危険な場所から 高齢者等は避難 ●避難に時間のかかる要 配慮者(高齢者・障がい 者・乳幼児等)とその支 援者は避難 ●高齢者等以外の人も危険 を感じたら自主的に避難 | こうれいしゃとう 高齢者等 ひなん 避難 ※3 | 3 相当 | 氾濫警戒 情報 洪水警報 | 大雨警報 | |
| 2 気象状況 悪化 | 自らの避難 行動を確認 | 大雨注意報 洪水注意報 | 2 相当 | 氾濫注意 情報 | — | |
| 1 今後気象 状況悪化の おそれ | 災害への心構えを 高めましょう | 早期注意 情報 | 1 相当 | — | — | |

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、
すでに安全な避難ができず
命が危険な状況です。
**警戒レベル5 緊急安全確保の
発令を待ってはいけません!**

避難勧告は廃止されました。
これからは、
警戒レベル4避難指示で
危険な場所から全員避難
しましょう。

避難に時間のかかる
高齢者や障がいのある人は、
警戒レベル3高齢者等避難で
危険な場所から避難
しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？必ず取り組みましょう！

自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

該当の場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地などにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に、必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、立退き避難(自宅の外に避難)が必要です。

例外

※土砂災害の危険があっても、
①土砂災害により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
②水・食料などの備えが十分にある場合は、屋内安全確保(自宅にとどまり安全確保をすることも可能です)。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日ごろから相談しておきましょう)。

いいえ

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、長野原町が指定している避難所または避難場所に避難しましょう。

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日ごろから相談しておきましょう)。

いいえ

警戒レベル4避難指示が出たら、長野原町が指定している避難所または避難場所に避難しましょう。

いずれの場合も、安全な避難経路を普段から確認しておきましょう！

避難する場合は以下のポイントを確認し安全に避難しましょう！

- ❗ 警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。
- ❗ 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません。
- ❗ 避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

避難する際は、近所の方にも声を掛け、お互いに助け合いましょう！

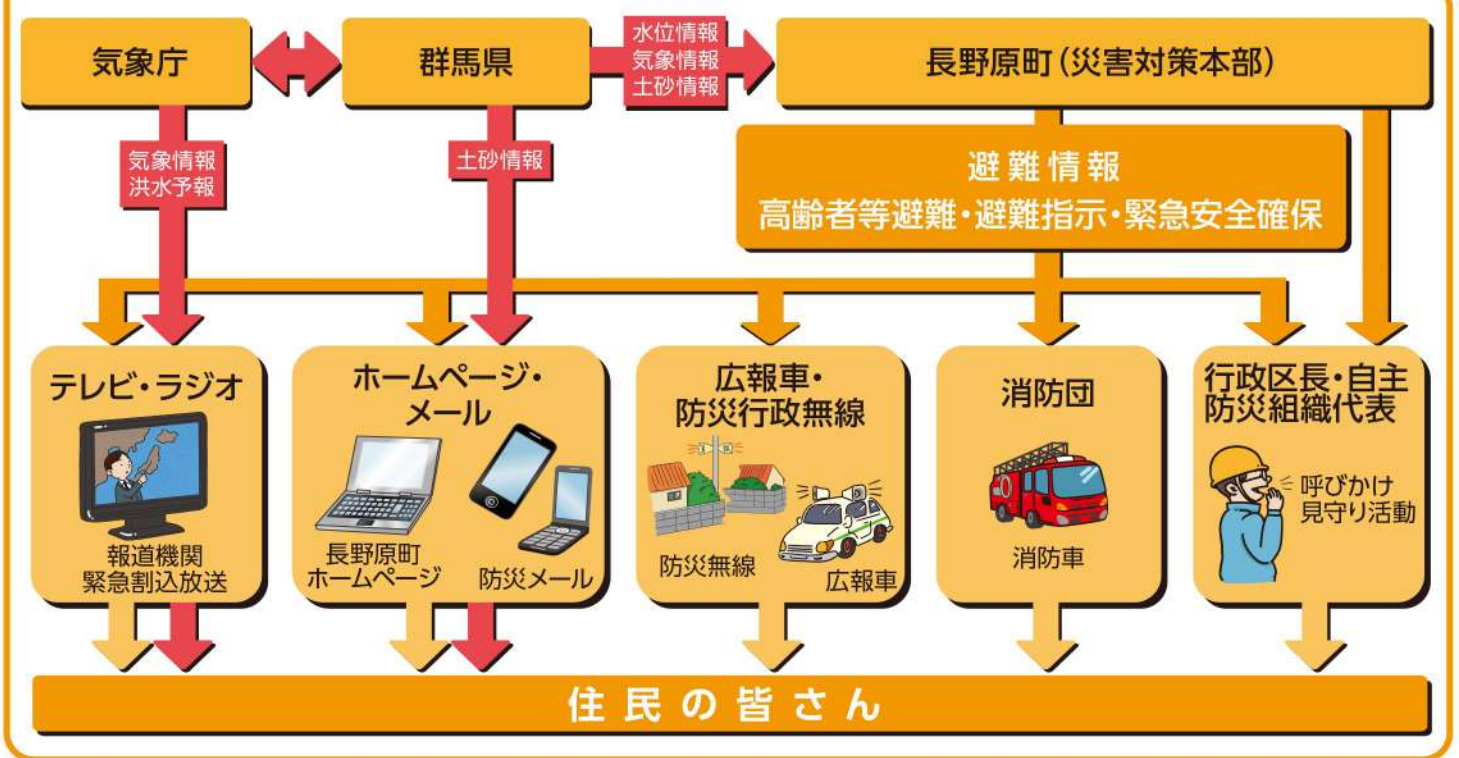
マイ・タイムライン

災害時のあなたの行動を書きましょう。
家族で決めた連絡方法、集合場所は裏表紙のメモに書き込みましょう。

| | | | | | | | | |
|---------------|------|--|---|---|--|------|--|--------------|
| 災害発生 までの時間 | 5日前 | 気象・避難情報 警戒レベル1 早期注意情報 ・大雨発生の可能性 ・重大災害の兆候 | 避難の準備・確認 総合防災ハザードマップ 警戒レベル1で確認 総合防災ハザードマップで自宅周辺の災害リスクを確認しましょう。 自宅が「早期立ち退き避難が必要な区域」のエリア内にある <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | 避難のポイント いざ避難というときに、慌てる ことがないように具体的な行動 をまとめましょう。 ・事前準備するもの <input type="checkbox"/> 避難場所、避難経路の再確認 <input type="checkbox"/> 家族の予定を確認 <input type="checkbox"/> 家の周辺の片付け <input type="checkbox"/> 携帯電話の充電 <input type="checkbox"/> 避難の服装準備と確認 <input type="checkbox"/> 非常用持出袋の再確認 <input type="checkbox"/> 窓の施錠の確認 <input type="checkbox"/> モバイルバッテリーの確認 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | | | | |
| | | 警戒レベル2 大雨注意報・ 洪水注意報 ・大雨・洪水警報等 ・重大災害の兆候 | 避難の準備・確認 避難する場所 警戒レベル2で確認 大雨のときに避難することを踏まえ、事前に 避難先や避難方法を考えましょう <table border="1"> <tr> <td>避難場所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>避難方法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>避難に 要する時間</td> <td></td> </tr> </table> 避難開始のタイミング 警戒レベル2で確認 <input type="checkbox"/> 自宅が「早期立ち退きが必要な区域」の エリア内にある場合 <input type="checkbox"/> 障がい者やその支援者、高齢者、妊娠中 の人や小さな子どもがいる人など避難 に時間を要する場合 → 警戒レベル3 高齢者等避難 <input type="checkbox"/> 上記以外の方は安全な場所へ避難開始 → 警戒レベル4 避難指示 | 避難場所 | | 避難方法 | | 避難に 要する時間 |
| 避難場所 | | | | | | | | |
| 避難方法 | | | | | | | | |
| 避難に 要する時間 | | | | | | | | |
| 半日前 | 5時間前 | 警戒レベル3 高齢者等避難 ・より激しい降雨 ・災害発生のおそれ | 避難情報の収集手段 警戒レベル2で確認 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> 町のホームページの防災情報 <input type="checkbox"/> 町の防災情報メール <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 障がい者やその支援者、高齢者、妊娠中 の人や小さな子どもがいる人など 避難に時間を要する人は避難を開始 しましょう | ・行動する際の注意点 <input type="checkbox"/> 車での移動はやめましょう <input type="checkbox"/> 外に避難することが危険な場 合は、建物内の安全な場所 (2階など)に垂直避難しま しょう | | | | |
| | | 警戒レベル4 避難指示 ・大雨特別警報 ・災害のおそれ高まり | <input type="checkbox"/> 安全なところへ避難する 全員避難完了!! | | | | | |
| 0時間 | | 警戒レベル5 緊急安全確保 | <input type="checkbox"/> 命の危険 直ちに安全確保 | 避難対象区域の人は この時点までに全員避難 | | | | |

災害時の情報伝達

▼住民への伝達方法



▼「全国瞬時警報システム (J-ALERT)」について

噴火警報や緊急地震速報、弾道ミサイル情報といった対処に時間的余裕のない事態が発生した場合に国が人工衛星を用いて情報を発信し、防災行政無線で直接住民に伝達するシステムです。

▼「登録制メール」に登録を!

防災行政無線で放送する町からのお知らせをメール配信しています。登録料・情報料は無料となっておりますので、ご活用ください。

1. 登録二次元コードにアクセスし空メールを送信して下さい。[naganohara@pasmail.jp]
2. 空メール送信後、およそ5分以内にメールが返信されます。
3. メール本文に記載されているhttpsから始まるURLを押し、インターネットに接続して下さい。
4. 「利用同意書」の内容を確認し、「同意する」を押して下さい。
5. 登録完了メールが届いたら登録完了です。



◆情報を集めましょう◆

▼テレビ

- ①リモコンのdボタンを押す
- ②「防災・生活情報」を選択する



災害情報が確認できます

▼群馬県

水位雨量情報システム

群馬県内の雨量・水位・ダム情報など



▼気象庁

防災情報、天気、キキクル(危険度分布)、大雨・大雪、地震・火山情報など



▼川の防災情報

カメラ画像、河川の観測水位、水位予測など



▼防災情報提供センター

リアルタイム雨量、リアルタイムレーダーなど



自宅にとどまった場合の備え

自宅で避難生活を送る場合、まずは **水・食料・トイレ** の備えが必要です。

水 飲料水の備え

1人1日3リットルを目安に最低3日分、できれば7日分用意しておきましょう

必要な備蓄量を計算してみましょう

$$3 \text{リットル} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{家族の人数} \\ \hline \end{array} \times 7 \text{日分} = \begin{array}{|c|} \hline \text{必要な量} \\ \hline \end{array} \text{リットル}$$

食料 食料の備え



日常の備え

- (1) 食材を少し多めに買い置きしておき、合わせてレトルト食品や缶詰なども買い置きしておきます(7日分以上)
- (2) レトルト食品や缶詰は古いものから定期的に食べましょう
- (3) 食べた分を補充して(1)に戻る

災害時

- (1) 停電した場合は冷蔵庫にある食料をクーラーボックスに移す
- (2) 傷みやすいもの、要冷蔵のものを優先して食べましょう
- (3) 普段から備えておいたレトルト食品や缶詰などを食べましょう



トイレ

災害時のトイレ対策



携帯トイレは1人1日5枚程度使うと想定して7日分ほど用意

$$5 \text{回} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{家族の人数} \\ \hline \end{array} \times 7 \text{日分} = \begin{array}{|c|} \hline \text{必要な数} \\ \hline \end{array} \text{枚}$$

家財被害対策

家庭にある物を使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法(簡易水防工法)は、水深が浅い段階では有効です。

浸水を防ぐ!

■ゴミ袋による簡易水のう

ゴミ袋などの大きめ(45リットル程度)のビニール袋を二重、三重に重ね、半分(20リットル程度)ぐらいの水を入れ、口をきつく縛る。



■簡易水のうと段ボール等との併用

簡易水のうを段ボール箱に入れて連結させれば強度が増し、水のうを積み重ねることもできます。



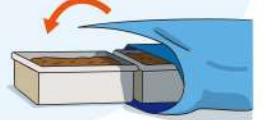
■止水板

長い板、鉄板、畳、テーブル、ロッカーなどを出入口に設置します。



■プランター

土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込んで使用します。



水のうで逆流防止

豪雨のときなど、急激な水位の上昇により下水管が満水の状態となると、下水が逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから、水が吹き出ることがあります。そのようなときは、ビニール袋に水を入れた「水のう」を置くと、逆流を抑える効果があります。



避難の方法

避難は学校や公民館といった指定緊急避難場所への移動ではありません。住んでいる地域やその時の状況、人によって方法は異なります。普段からどう行動するか決めておきましょう

■立退き避難

- ・町が指定した避難場所
- ・安全な親戚・知人宅
- ・安全なホテル・旅館
(通常の宿泊料が必要です。本書(総合防災ハザードマップ)で安全かどうかを確認し、予約しましょう。)



■屋内安全確保

- 本書(総合防災ハザードマップ)で自宅にいても問題がないか確認する必要があります。
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないこと
 - ・浸水深より居室が高いこと
 - ・水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分にあること



ここなら安全!



■緊急安全確保

「立退き避難」を行う必要がある居住者等が、適切なタイミングで避難をしなかった等により避難し遅れたために、災害が発生・切迫し、立退き避難を安全にできない状況に至ってしまった場合に、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、その時点での場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等することが「緊急安全確保」です。



- ・自宅の少しでも高い場所に移動
- ・近隣の少しでも高い建物に移動
- ・崖から離れた部屋に移動

避難所について

避難所では生活ルールを守りましょう

- 起床や就寝の時間、トイレの使い方、喫煙場所、ペット同伴の可否など避難所のルールを守りましょう。
- ほかの人の居住スペースに立ち入ったり、のぞいたり、大声をあげたりするのはマナー違反です。

役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受付や清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をしましょう。
- みなさんで助け合いながら避難所運営に参加しましょう。



ベッドやプライバシー確保に努めましょう

- 段ボール型のベッドの設置は足腰の弱い方に有効です。
- プライバシーの確保のために間仕切り(パーティション)などがあると便利です。



ペットの避難 ～飼い主が備えておくべきこと～

ペットの避難

ペットの同行避難は各避難所に定められたルールに従いましょう。避難者がいるスペースから離れ、決められた場所につないだり、持参したケージ(おり)等に入れたりするなど、飼い主が責任を持って世話をしましょう。

■災害時の心構え

避難所には、動物が苦手な人やアレルギーを持っている人など様々な人がいるので、周りの人に配慮しましょう。



■ペットのしつけと健康管理

普段からケージやキャリーバッグ等に慣れさせておき、決められた場所で排泄ができるようにしておきましょう。予防接種や寄生虫の駆除をしておきましょう。

■ペットの避難用具・備蓄品の用意

食料、リードやキャリーバッグ等、避難先での飼育に必要なものを予め用意しておき、持参しましょう。ペット用の避難物資が届くまでには時間がかかる場合があるので7日分は用意しておきましょう。



ウイルス等の感染症が収束しない中でも、**災害時には**

危険な場所にいる人は避難することが原則

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な行動をとりましょう。

知っておくべき **5** つのポイント

- 1 避難とは『難』を『避』けること**
自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。
- 2 避難先は学校・公民館だけではありません**
避難所が過密状態となることを防ぐため、安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。
- 3 マスク・消毒液・体温計を自ら準備**
避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ自ら携行してください。
(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)
- 4 避難場所、避難所の変更・増設を確認**
本書発行後に情報が変わる可能性もあります。あらかじめ町のホームページ等で確認してください。
- 5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です**
避難場所への経路など周囲の安全確認を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう



- 避難所に入る前に**
感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。
避難所に入る前に、発熱の有無など体調チェックを行いましょう。
- 換気の実施**
可能な限り、定期的に換気を行いましょう。
換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策も必要です。
- 手洗い、うがいをこまめに**
食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いを。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。
- 「3密」(密閉・密集・密接)の回避**
避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。
- 咳エチケットの徹底**
飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくてもマスクを着用しましょう。
- 日々の健康状態をチェック**
定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。

ハザードマップの見方

▼土砂災害(特別)警戒区域について

- 土砂災害(特別)警戒区域は群馬県と国(国土交通省)で急傾斜地と土石流について調査した結果を基に掲載しています。
- 土砂災害(特別)警戒区域は、現地調査などにより把握されたものです。地図に表示されている箇所以外でも土砂災害が発生する可能性があります。



▼洪水浸水想定区域について

- この洪水浸水想定区域図は、吾妻川圏域の洪水予報区間について、想定最大規模降雨(491mm/3日(八斗島上流))による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示したものです。
- この洪水浸水想定区域は、現時点の吾妻川圏域の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水によりはん濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- このシミュレーションの実施にあたっては、**支川の決壊によるはん濫、想定を超える降雨、内水によるはん濫等を考慮していません**ので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- なお、この洪水浸水想定区域は、吾妻川圏域のはん濫により生じる洪水浸水想定区域と想定される水深等を示した図であるため、隣接する河川のはん濫の影響が考えられる区域では、別途、当該河川の洪水浸水想定区域を参照する必要があります。

◆ハザード情報の見方◆

土砂災害



※ハザードマップの色や凡例は町によって異なる場合があります

- 土砂災害警戒区域**
土砂災害による被害のおそれがある区域
- 土砂災害(特別)警戒区域**
建造物に損壊が生じ、住民などの生命または身体に著しい危険が生じるおそれがある区域

ハザードマップポータルサイト



水害 洪水浸水想定区域 (浸水深)

| 浸水(想定最大)情報 凡例 | |
|---------------|----------------|
| 浸水想定区域・想定水深 | 10.0m以上の区域 |
| | 5.0～10.0m未滿の区域 |
| | 3.0～5.0m未滿の区域 |
| | 0.5～3.0m未滿の区域 |
| | 0.0～0.5m未滿の区域 |
| その他 | 家屋倒壊の危険性のある区域 |

家屋倒壊 家屋倒壊等はん濫想定区域 (河岸浸食)



洪水時の河岸浸食により、木造・非木造の家屋倒壊のおそれがある区域

水の流れが速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります。

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります。

